

第22回ヘルスツーリズムセミナー
～2010年6月29日(火)開催～

実施報告書

2010年7月29日

特定非営利活動法人
日本ヘルスツーリズム振興機構

第22回 ヘルスツーリズムセミナー 開催概要

日時 : 2010年6月29日(火) 16:30~18:00

会場 : 東京都品川区 NPO会議室A・B

主催 : 特定非営利活動法人 日本ヘルスツーリズム振興機構

参加人員 : セミナー 56名
懇親会 22名

スケジュール:

- 16:30~ 主催者あいさつ 森昭三日本ヘルスツーリズム振興機構理事長
- 16:35~ 【第一部】高橋 伸佳 日本ヘルスツーリズム振興機構事務局長講演
「ヘルスツーリズム概論~歴史・現状・今後の課題~」
- 17:05~ 【第二部】加森 久丈 氏講演
「ヘルスツーリズム事例 ルスツリゾート(北海道)の取組」
- 17:25~ 【第三部】小笠原 徹 氏講演
「ヘルスツーリズム事例 かなたラソ(沖縄)の取組」
~最も進化したアクアセラピー“WATSU”~
- 17:45~ 【まとめ・質疑応答】
- 18:15~ 【懇親会】
講演者を囲んで気軽に情報交換をする場。会費1000円(学生無料)。

<第一部>ヘルスツーリズム概論～歴史・現状・今後の課題 [16:35~17:10]

講演者略歴: 高橋伸佳

<役職>

特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構事務局長
ヘルスツーリズム研究所長

<略歴>

JTBグループにおいてヘルスケア、メディカル事業領域を活用した地域活性化に係る調査・研究業務に従事する一方、心理学的、生理学的研究の社会的応用をテーマとした事業開発業務に従事。2005年より現職。日本経団連ヘルスケア産業部会「健康投資と企業経営」委員、経済産業省近畿経済産業局「健康産業の見える化」委員、大阪市「健康・予防医療プロジェクト」コーディネーター等、社会活動としての役職を歴任。



講演概要(事務局編集)

I. ヘルスツーリズム概論

1. ヘルスツーリズムとは(二つの定義);

- ①特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構による(2005年)
「健康・未病・病気の方、また老人・成人から子供まですべての人々に対し、科学的根拠に基づく健康増進(EBH: Evidence Based Health)を理念に、旅をきっかけに健康増進・維持・回復、疾病予防に寄与するもの」
- ②社団法人日本観光協会による(2005年)
「自己の自由裁量時間の中で、日常生活圏を離れて、主として特定地域に滞在し、医科学的な根拠に基づく健康回復・維持・増進につながり、かつ、楽しみの要素がある非日常的な体験、あるいは異日常的な体験を行い、かならず居住地に帰ってくる活動である」
どちらも科学的根拠を理念にした、健康回復・増進と関わる観光行為。

2. ヘルスツーリズム推進地

全国で231案件、557プログラムにのぼり、潜在市場規模は4兆円と算出される(2007年時点、ヘルスツーリズム研究所調べ)。

II. 歴史

1. 古代ギリシャ時代

流れる水や泉が「生命の泉」とみなされ、その周辺に神殿が作られ、僧侶による医療行為がなされていた。その医療行為を受ける旅行をしていた。

2. 17世紀後半

温泉や海などの自然による医学的効果が注目される。イギリスのバースやブライトン、ドイツのバーデンバーデン等に治療や保養を目的とする観光が発達。

3. 日本

日本では、奈良時代から湯治があり、江戸時代中期から大衆化した。

III. 現状

1. 旅の機能(効果)とは;

- ①旅をすると自己効力感(セルフエフィカシー)が高まり、怒りや疲労感、緊張感が解け、活気がわく。
- ②気分がよくなる(POMSのデータより)。
- ③ストレス解消になる。
- ④NK細胞活性が高まり、細胞数も増加する。
- ⑤ドーパミンが出る。
- ⑥セロトニンの値が高まる。

2. ヘルスツーリズムの類型

旅の目的を医療から健康増進まで、参加形態をマストツーリズムからオーダーメイドの個人型まで分けると、治療目的の旅行から、スピリチャル的な癒し旅行まで、幅広いパターンが見られる。

3. お客様の声を聞く

- ①アンケートによれば、温泉リゾートでのデトックス系ツアーが人気である。
また、女性にとって「キレイになりたい」というQOLは重要。
- ②健康商品とのセットで新しいライフスタイル提案をする。具体例として;
 - ・とっておきのファスティング(断食)入門ツアー
 - ・メタボリック対策ツアー
 - ・男磨きツアー

4. 農水省の施策として;

旅行には、教育的・保養的効果がある。来た人だけでなく、受け入れ側も活性化する点を評価。

IV. 課題

1. 問題点

- ①効果が一過性である。
- ②旅への信頼性・実感性を求められる。
- ③ヘルスツーリズムを作ろうとすると点になってしまい、県を超えた地域連携がしにくい。
- ④高コストになりがちである。
- ⑤商品化しにくい。店頭で見かけない。
- ⑥出来た商品が流通に乗るルートが出来ていない
- ⑦宣伝されていない。知られていない。

2. まとめ

旅行の効果は一過性であるが、旅行の特性である非日常空間を利用し、「感動・共感体験による」気付き、動機づけの場として活用し、健康な生活へのライフスタイル転換(=行動変容)をはかるきっかけの旅とする。その為には、旅行前・旅行後のサービスも必要。

V. メディカルツーリズムについて

1. 現状

世界では当たり前の旅行形態。年間約600万人が国境を越えて移動し、毎年10%の伸びを示す。

2. なぜ外国で医療を受けるのか？;

- ①値段が安いから
- ②質が良いから
- ③本国では手術まで待てないので

3. 取扱いは;

- ①タイ(年間140万人)
- ②シンガポール(55万人)
- ③マレーシア(40万人)

4. 特徴

医療観光を国策として位置づけ、政府関連機関主導のもとに事業化を推進している。

5. 日本の優位点

健康長寿の国、医療レベルだけでなく、信頼感やホスピタリティの高さも優位性が高い。

6. 日本の課題

- ①言葉の壁
- ②高いと思われる医療費
- ③看護師不足
- ④国民皆保険制度(日本の医療は日本人のもの、という意識)
- ⑤決済(支払い)問題
- ⑥旅行会社の取組の遅れ
- ⑦文化的な差をどう埋めていくか
- ⑧ビザの問題

7. まとめ

ヘルスツーリズムも国際化の時代を迎えた。旅を活用してどのように健康の知恵を人に伝えるのか。ヘルスツーリズムの未来にかかっているこの問題を真剣に受け止めたい。

＜第二部＞ヘルスツーリズム事例 ルスツリゾート(北海道)の取組[17:10~17:30]

講演者略歴:加森久丈様

＜役職＞

加森観光株式会社 マーケティング部 兼 海外事業部長

＜略歴＞

2003年 4月 加森観光株式会社東京支社 社長室秘書

2005年 4月 加森観光株式会社札幌本社 営業企画部兼海外事業部長

2005年 9月 加森観光株式会社札幌本社 マーケティング部長

2010年 4月 kamori Australia Pty.Ltd.Lone Pine Koala Sanctuary Managing Director

*ローンパインコアラサンクチュアリー 支配人

2010年 7月 アンチエイジング推進室 担当部長 (兼務)

現在に至る



講演概要(事務局編集)

1. ルスツリゾートの施設について

①ハード;

千歳空港から車で1時間半、北海道内主要地からも車で1時間半程度の好立地。

883室、宿泊4000人、スキー・ゲレンデ37コース、アミューズメントパーク、屋内・外のプール、ゴルフ4コース(72ホール)、テニスコート15面、アリーナ、温泉、コンベンションホール、ショップ26店舗、レストラン13店等。

②ソフト;

コンセプト:楽しい。キーワード:Be Happy

エンターテインメントの追求;年間60種類以上のアクティビティ

③表彰;

ターザン「全国1位」(平成2年)、全国スキー場顧客満足度「全国1位」(平成15年度)、

Best Small Resort 「世界1位」(平成20年度)、満足度の高い施設「北海道1位」(平成20年度)

ヘルスツーリズム大賞(平成21年)

2. 加森観光関連グループで行ったヘルスツーリズムの取組

①上士幌イムノリゾート

経済産業省が推進する地域再生マネージャー事業のモデルケース第一号として、北海道の上士幌町にて、北海道大学と連携し、スギ花粉利トリート(回避)ツアーを企画。観光による地域経済の活性化に取り組む。

②メタボ・ビートキャンプ イン 夕張

北海道大学、夕張医療センター「希望の社」と連携しメタボリックシンドローム対象者向けのツアーを実施。国土交通省の「ニューツーリズムの創出・流通推進事業」にも採択される。

③ルスツリゾート健康村

慶応大学環境情報学部の講師と連携し、血糖値コントロール理論による運動、食事のガイドラインを作成。気軽に楽しく無理なく健康になるプログラムを開発。プログラムの体験を通して血糖ダイエットに関する知識を得る事もでき、日常生活に戻っても、得た知識を応用して健康な生活を送ることが出来る。

④アンチエイジングリゾート

アンチエイジングをテーマにルスツリゾートでの新たな取り組み。各分野の専門家、企業、学会と連携し、ルスツリゾートを中心に人生を豊かにするライフスタイルを提供できるサービスの構築。

3. ヘルスツーリズムの見直し

- ①求める要素:長く健康で毎日楽しめる充実した人生を送り、幸せな晩年を迎えること(ウェルビーイング)。
ウェル・ビーイングとは幸福な状態。
- ②ルスツリゾートでは、「ウェルビーイング・プロジェクト」というCSR活動を通じ、お客さまに充実した人生を送って頂けるライフタイムサポートをする。
- ③その為のコンセプトは「楽しい」、キーワードは「Be Happy」、コンセプトを支える柱は4K:環境、観光、健康、教育



4. アンチエイジング・リゾートとしてのルスツリゾート

幸せになるライフスタイルの提案。お客様の私生活のニーズに焦点を当て、充実した人生を送って頂けるライフタイム・サポートをする。楽しい思い出や癒しなどリゾートで得られる一時的で一般的な付加価値ではなく、お客様の日常で役に立つ知識、経験、体験など本当の意味での身になる付加価値の提供。

5. ヘルスツーリズムの必要条件

- ①治療からレジャーまで、様々な形態があるが、科学的根拠を持たせることが大切。
- ②アクセスの良さ、整った施設と環境、長期滞在に耐えうるプログラムの充実、誰がプログラムを提供しているのが明確であること、など。

6. なぜ北海道？

土地の広さ、世界からの注目度、四季がある事(冬の雪、夏の花)、美味しい食事、ホスピタリティー、自然環境、サミットを受け入れたので多言語対応可能。

7. なぜルスツリゾートなのか？

- ①総合レジャー・エンターテインメント施設
北海道最大のオール・シーズン・リゾート
- ②産官学との連携
 - ・京都府立大学 アンチエイジング学会の吉川敏一先生と顧問契約
 - ・アンチエイジング・ドクター 日比野佐和子先生と組む
 - ・日経BP社との提携
日経ヘルス、日経ヘルス・プルミエとのタイアップ記事
- ③アンチエイジング・ドック・ツアーの催行
アレルギーなどを把握して、各個人にあったプランを提供
日本初、世界初のアンチエイジングリゾート

8. まとめ

誰もが健康で幸せな生活を送りたい。リゾートがきっかけとなる。「リゾートでのひと時の体験が一生の宝となる」ように、ヘルスツーリズムの持つ力を、一人でも多くのお客さまに提供したい。

以上

<第三部>ヘルスツーリズム事例 かなたラソ(沖縄)の取組[17:30~17:50]

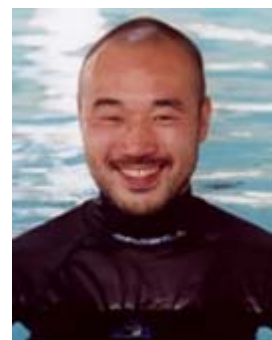
講演者略歴:小笠原徹様

<役職>

沖縄WATSUセンター代表 WATSU国際インストラクター

<略歴>

- 1992~97 世界的なホテル・チェーンのマネジメント会社の人事部に勤務。
- 1997~06 不登校や軽度の発達障害の子供たちの為の教育システム開発、教育プログラム企画・実施、カウンセリングなど、学校運営全般に携わる。
- 1997~ フロリダ州パナマシティにてドルフィンセラピー・プログラムを主催。
- 2000~ WATSU創始者ハロルド・ダール、一番弟子のミナクシ等に師事。
- 2006~ 日本にWATSUを普及向上させるために株式会社トリニティを設立。
- 2009~ 「かなたラソ沖縄」内に沖縄WATSUセンターを設立。株式会社トリニティからWATSU事業を独立させてアクアセラニティLLCを設立。



講演概要(事務局編集)

1. WATSUとは？

①概要:

1980年にアメリカのハロルド・ダールが日本の指圧を取り入れ開発したアクアセラピー。以後30年にわたり世界中で技術を蓄積、進化し続けている。

②動画を見ながら動きの説明:

- a. 水面に浮かび、セラピストに身体を預け、水の浮力と圧力を受けて身体を動かされる。水中に耳を入れたとたん、別世界。自分の心臓の音くらいしか聞こえず、水に溶けるように身体がほぐれて行く高いリラックス効果。
- b. 日常から切り離され、精神的な高揚、動的な瞑想状態になることもある。
- c. 水温は33~35度の不感温度。血液、リンパの循環がよくなる。
- d. 水の中、人任せ、水任せ…。体験すると宇宙を漂う感じ。羊水の中、過去のビジョンが浮かぶ、泣く…。など人により様々な感想・反応が出る。

③WATSUとの出会い:

フロリダでイルカセラピーを行っていたが、そこで奇跡的な事が色々起こった。例えば、余命半年の少女がイルカと泳ぎ、その後14~15年(現在も)生きている。WATSUに出会った時、そのイルカセラピーに一番近いと感じた。

2. WATSUの特徴

①差別化ヘルスケア

水の中で行うケアは他にない。水と人との相性は元々良い。泳げない人でも楽しめる。WATSUがきっかけで泳げるようになることもある。

②本物志向に応える技術

30年間世界のアクアセラピー分野でトップを独走し、他の追随をゆるさないハイクオリティな技術を蓄積している。

③エビデンス(科学的根拠)研究

琉球大学と沖縄WATSUセンターによる研究を進めている。不定愁訴に対する効果の研究結果を本年中に2~3の学会で発表する予定。

④92%圧倒的な満足度

体験者アンケートで5段階評価中、5と4をマークした人が92%にのぼる。

⑤他プログラムとの相性抜群

WATSUは全身を緩め、リフレッシュ効果が高いので、他のトリートメントと組み合わせると相乗効果が高まる。



3. 海外での導入例

①海外の有カホテルでは、差別化が可能な高級トリートメントとして導入が進む。

例:Mauna Lani Resort (アメリカ・ハワイ)

②水の効能や心身への高効果・低負荷から、医療プログラムとしても高い注目を浴びている。

例:Terme di Saturnia (イタリア)

③2006年アジアスパ・アワードで最高トリートメントを受賞する等、セラピーとして高い評価を受けている。

例:Mandara Spa&Villa (フィリピン)

4. 国内での導入例

2008年以降、日本各地の本格スパで導入開始

例:スバリゾートEXES、かなたタラソ沖縄、バーデハウス久留米 (沖縄)

赤沢スパ、エクシブ初島クラブ、サザンクロスリゾート&スパ、船原館 (静岡)

江の島アイランドリゾート(神奈川)

5. メディアでの紹介事例

①「自分を変える」に興味を感じる層に対してメディアが反応し、掲載が増加した。

②25歳前後のOL層から50歳程度の主婦層まで幅広い女性雑誌に取り上げられた。

③ビジネス系新聞など新しいトレンドとして注目され掲載された。

6. 沖縄WATSUセンターでの人材育成

沖縄WATSUセンターでは日本でのWATSU教育を行い、セラピストの育成にあたっている。大切なのは「気付き」であり「人」だと考えている。

7. まとめ

沖縄をWATSUのメッカとし、全人類にこの素晴らしいWATSUを受けて貰えるようにしたい。

以上

まとめ・質疑応答 [17:50~18:20]



3講師それぞれの講演の後、高橋伸佳 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構事務局長がまとめと質疑応答を行う。



「ヘルスツーリズムの推進には何がネックになっているのか」、「ヘルスツーリズムの定義について」等、学生からも積極的な質問が続いた。

懇親会 [18:20~19:30]

ご講演頂いた講演者と参加者が、気軽に情報交換する場として開催。22名様が参加され、終了予定時間を過ぎても歓談が続いた。



アンケート結果

配布枚数: 56枚
有効回答数: 29枚(回収率51.8%)

① 今回のセミナーはお役に立ちましたか？

はい	29
いいえ	0
どちらとも言えない	0

n=29



その理由をお書きください。

- ・ヘルスツーリズムの今後や横の広がり等が体系的に聞けた。
- ・北海道から沖縄まで違った地方の様々なヘルスツーリズムの在り方について学べ、良かった。
- ・ヘルスツーリズムについて何の知識もなかったが、今回のセミナーで、3人の講師から多くの情報を得ることが出来た。もっとヘルスツーリズムについて知りたい、広げて行きたいと思った。
- ・メディカルツーリズムの急成長の現状と、日本での課題が提示され、参考になった。

② 次回以降のセミナーで、聞いてみたいテーマ・分野をお答えください。

- ・女性をターゲットにしたヘルスツーリズム、キレイという切り口から取り組んでいるヘルスツーリズム。
- ・食をテーマにしたヘルスツーリズム。
- ・日本特有の文化で、旅と健康につながるものの事例。
- ・医療観光について。足かせになっていることや日本ブランドの構築など。
- ・ヘルスツーリズムは原価が高い、との事だが、海外での成功例など取り入れられる事を聞きたい。

③ その他、ご要望・お気づきの点などがありましたらご記入ください。

- ・ルスツ、WATSUの事例は大変参考になった。ヘルスツーリズムの理念であるEBH(科学的根拠)について補足があれば、良かったように思う。
- ・アクアセラピーWATSUについては、以前から興味があった。今回のセミナーで話を聞き、ここで立ち止まらず自ら体験しに行こうと思った。
- ・積極的な方ばかりで刺激されました。とても参考になりました。ありがとうございました。

以上、ご協力ありがとうございました。

特定非営利活動法人
日本ヘルスツーリズム振興機構

〒 141-8657
東京都品川区上大崎2-24-9
アイケイビル3階
(株式会社ジェイコム内)

TEL:FAX 03-5403-2574
<http://www.npo-healthtourism.or.jp>